



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 2
R5. 4. 28

困難を乗り越える・前向きにする

校長 加納礼爾

あきよ山の緑が鮮やかな季節となりました。学校への坂道では八重桜が散り、藤(ふじ)の花、つつじの花にかわりました。ゆっくりとしか登れなかった1年生も、毎日歩いているうちに、たくましが身についてきました。

この坂道には、思い出があります。私の息子が1年生の4月に、「学校へ行きたくない。」と言ったのです。なにか嫌なことがあったのかと、心配しながら話を聞くと、「最後の坂がいや。」とのこと。少しホッとすると同時に、どうしたらその困難を乗り越えさせられるか、と考えました。

選択肢はいろいろあります。……車で送る。一緒に歩く。一日休ませる。……。

共働きの我が家では、登校時一緒に歩くことはできません。なにか、楽しみをつくろうと考えて、次の土曜日に、お弁当を持って、学校と化石公園までピクニックに行くことにしました。息子の案内で学校まで歩き、急な坂道を一緒に上りました。息子は妹(娘)の手を引いて上りました。何を思ったかはわかりませんが、次の日から、「学校へ行きたくない。」とは言わなくなりました。

坂道の大変さを親にわかってもらえたからか、妹に負けられない、と思ったのか。坂道の上には遊具があり友達もいて楽しいこともあると思ったのか、途中で聞こえる鳥の鳴き声を楽しみながら登ればよいと気づいたのか。

子供は「今日は疲れた。」「嫌なことがあった。」ということがあります。その言葉をどう受け止め、どう切り替えるかで、次の日の行動を前向きにすることができると考えます。

「疲れた」→「疲れるぐらい頑張ったんだね。なにをやったの?」と聞けば、頑張ったことを話せます。「なにか嫌なことがあったの?」と聞いてしまうと、嫌だったことを探して答えようとします。「嫌だった」→「そうなの。嫌だったの。」「どうしたかったの?」「助けてと言えたんだね。」「楽しいこともあったんだね。」と、気持ちを前向きにする言葉を選んで会話をしたいです。

集団で生活する学校では、自分の思い通りにならず、嫌な思いをすることもありますが、でも、それを乗り越える力をつけるチャンスでもあります。逆に、集団だからこそ、楽しいことも喜びもたくさん味わえます。勉強だって、歌だって、運動だって、給食だって、仲間と一緒にいる楽しさがあります。坂道は、いつか、自分の力で上れるようにする必要があります。楽しみを見つけて自分で歩こう、または困難を乗り越えて仲間と歩こうとする力を育てています。

地域の方は、子供たちに元気に声をかけてください。子供たちも安心して登下校できます。子供たちの挨拶が、地域の人を元気にすることもあります。中には大きな声を出すことが苦手な子もいるでしょう。それでも、それを乗り越えて、大きな声で挨拶ができる「明るく たくましい 明世の子」を一緒に育てていきたいです。

